

令和3年度 2学期終業式「訓話」(令和3年12月24日)

新潟県立長岡高等学校長

鈴木 勇 二

0 はじめに

皆さん、こんにちは。直接皆さんを目の前にしてお話したいのですが、体育館が寒いことや、感染症対策を徹底することからリモートによる終業式としました。ご容赦ください。

1 2学期を振り返って

さて、早いもので、今日で2学期は終わりになります。この2学期はどのようなものだったでしょうか。少し振り返ってみましょう。

8月25日に始まった2学期、いきなりでしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、9月3日から2週間、部活動が休止となりました。各競技の地区大会が始まろうとしていた時期であり、大会開催日を変更したり、中には地区大会なしで県大会を開催した競技もありました。本来の開催日に合わせて調整してきたのに、直前になって2週間の休止は精神的にもつらかったと思いますが、皆さんよく我慢してくれたと思います。ありがとうございました。その後は、感染も落ち着き、大会も開催でき、部活動も通常通りになりました。

また、和同祭も同様の理由から1ヶ月延期し、平日の10月12日に開催しました。例年、多くの皆さんから学校においでいただき、楽しんでもらう和同祭ですが、今年は感染症対策のため規模を縮小し、来客無しで1日の開催としました。とはいえ、全てのクラスがクラス企画で参加し、また文化部の発表も行い皆さんには楽しんでもらったのではないのでしょうか。私も、クラス企画を見て回りましたが、どこのクラスだったか、教室を暗くして、夏祭りの夜の「縁日」を再現していました。ボールを投げるゲームをしてもらった「うまか棒」がおいしかったのを覚えています。来年こそ、多くの来客を迎え、盛大に行いたいものです。

次に、本校の創立150周年です。10月23日に記念式典と記念講演会を開催しました。残念ながら皆さんは、式典会場の長岡市立劇場に入れず、教室からリモートでの式典参列となりました。吹奏楽部及び合唱班の人たち、生徒会長さんには、会場で式典を盛り上げてもらいました。ありがとうございました。

式典の中でもお話ししましたが、創立が明治5年と言ってもピンとこなかかもしれません。明治維新から

まだ間もない頃、あさって最終回を迎える「青天を衝け」に出てくる人たちがこれから世に出てくる頃です。江戸時代の終焉とほぼ同時に、長岡高校の歴史が始まったといえます。この創立150年を記念して、「長岡高等学校百五十年史」が刊行されましたが、これを見ると、明治から令和まで、それぞれの時代に、皆さんの先輩たちは、伝統精神の「剛健質樸」「豪爽快活」「和而不同」を胸に、この長岡高校で青春を過ごし、次の舞台へと進んでいったことがわかります。この本は現在各教室においてありますね。時間を見つけて目を通してみてください。そして、皆さんも先輩たちと同様に、本校での充実した高校生活を通して実力を蓄えて、志望する次のステップへと進んで欲しいと思います。

部活動、和同祭、150周年の3つを挙げましたが、これら以外にもいろいろな行事があり、そういった行事から皆さんが得たものも多くあることでしょう。しかし、1学期にも話しましたが、学校生活の大半は授業であり、その時間を大切にすることは高校生活を充実させることと同じです。学校生活の基本は授業です。このことを忘れず、これからも頑張ってください。

2 令和3年を振り返って

次に、2学期ではなく、令和3年を振り返ってみます。

(1) コロナ対策

最も私たちの生活に影響を与えたのは、当然ですが、新型コロナウイルスです。

昨年12月から1月にかけて第3波が、4月から5月にかけて第4波があり、オリンピックの開催と時期を同じくして始まった第5波は、8月下旬にピークを迎えました。これまでにない大感染で、県内でも連日100人を超える感染者が新たに見つかり、8月20日には新潟市に加え長岡市、小千谷市にも「特別警報」が発令されました。幸い、9月中旬から急激に感染が弱まり、落ち着いた状況となっていました。今月に入って新発田市、長岡市の小学校でクラスターが発生するなど、心配な様子もうかがえます。

本校では、新型コロナウイルス感染は起きていませんが、それは、皆さん一人一人が、しっかりと対策を取ってくれているからだと考えています。o(オミクロン)株への感染が日本でも広まりつつある今、これまで以上に、できることをしっかりやるという意識が大切であると思います。手洗い、手指の消毒、咳エチケット、マスクの着用、大声を出さない、黙食、菌磨き次の会話は控える、ソーシャルディスタンスをとるなど、基本的な行動を徹底するようにしましょう。

(2) 東京オリンピック、パラリンピックの開催

次に今年を振り返る上で、東京オリンピック、パラリンピックの開催は欠かせません。

1年遅れで7月23日に開幕した東京オリンピックは、コロナ禍での開催ということで、無観客での競技が多かったわけですが、選手たちが競技に集中する姿は私たちに感動を与えてくれました。また、8月24日にはパラリンピックも開幕し、障害を持つ選手たちの頑張っている姿を見ることができました。

オリンピックの開会式。誇らしげに入場する各国の選手や、ピクトグラムを会場で披露したパントマイマーも素晴らしかったのですが、一番の驚きは、国立競技場上空に「市松模様」の光のエンブレムが出現し、まもなく青い地球の形に変わったこと。皆さんは覚えているでしょうか。空間にどうやって作るのか不思議に思っていたところ、これが1824台ものドローンで作られたものと知って「なるほど」と理解しました。調べたところ、この演出を担当したのは、半導体大手企業として知られるアメリカの「インテル」で、使用したドローンもそれを制御するソフトもインテルが開発したものだそうです。あの美しいパフォーマンスを1人が1台のパソコンで制御していたことにも驚きました。

さて、オリンピックの主役は選手たちです。部活動をしている人は、自分がやっている競技はテレビ等で見ていたのではないのでしょうか。東京大会ということもあり、日本人選手の活躍が目立ちました。10代の若者が活躍する競技もあれば、ベテランが活躍する競技もありました。スケートボードの堀米選手、水泳の大橋選手、体操の橋本選手、柔道の阿部兄妹など金メダルに輝いた選手はもちろん、陸上競技男子3000m障害の三浦選手、女子1500mの田中選手などメダルを取れなくとも練習の成果を見事に発揮し、私たちに驚きと感動を与えてくれた選手もいました。現状に満足せず、「もっと成長できる」と次の目標を語る選手の言葉に勇気づけられた気がします。

選手たちは、一体どれだけ努力を重ねてきたのでしょうか。先ほど名前を挙げた選手たちのように、努力が報われて歓喜の声を上げた選手がいる一方で、残念な結果に落胆している選手もいました。いずれにしても、つらい練習を重ねてきた分、その思いが強く表現されたのだと思います。また、選手たちはインタビューで自分を支えてくれた方々への感謝の気持ちを述べていました。私たちも常に、そういった感謝の気持ちを持ち続けたいものです。

悔しい思いをした選手の一人にマラソンの服部勇馬選手がいます。先日まで続いていた新潟日報の連載記事を読んだ人もいます。完走した76人中73位。体調の変化もあり、意識が朦朧とする中でのゴールでした。重い熱中症の症状を起こしていました。なぜそこまでして走るのか。「何度も棄権が頭をよぎったが、支えてくれた方、これまで戦ってきた選手の思いを踏みに

じるようなことは絶対にしなくなかった」とその後のインタビューで話しています。また、このレースは初めて「自分に勝てた」レースだったとも話しています。順位は悪かったけれど、猛暑と体調不良という悪条件の中で完走できたということが、彼にとって大きな財産だったのでしょう。服部選手はオリンピック後、休養のため、しばらくの間走ることをやめていましたが、11月27日トラック種目に出場し、次のオリンピックに向けて動き出しています。常に前向きな姿勢は私たちが見習うべきことです。

以上、何点かお話ししました。皆さん自身も、この1年を振り返り、これからの1年の目標を立てて、実行して欲しいと思います。

3 終わりに

さて、明日から冬休みです。3年生は共通テストまであと3週間になりました。現役生は試験当日まで学力が伸びるといいます。気持ちを落ち着けて、最後まで粘り強く、勉強に励んでください。応援しています。

2年生は、すでに自分の進む方向を決めていることと思います。その目標に向かって、今何をすべきかを考えて実行してください。準備は早いほうがいいです。1年生は、自分の進むべき方向をじっくり考え、明確にしましょう。冬休み中、生活のオン、オフを上手に行って、充実した冬休みを過ごしましょう。

それでは、3学期の始業式は1月6日です。また元気な顔でお会いしたいです。良い年をお迎えください。

以上で私の話を終わります。